○訓練法（2）　昭和53年12月20日　一弘

遺伝情報である処の、我々の祖先達の生きるに都合が好い反射運動は、先ず私達の身体をリラックスに、無駄な力を入れないように構える処から始まるのである。

いろいろに就いて私が採った方法はNHKブックスの213号イメージと人間、藤岡喜愛著の84頁の「上へ上がろう」という覚醒指導夢から得たものである。それは精神分析によって治療を受ける人達に施こす方法である

が、先づ眼を閉ぢて身体を楽にするのである。仰向けに横になつても、椅子に腰をかけても よろしい、とに角、全身の力を抜いて構えるのである。

私は元来、催眠をかけられる事は好まない。自己催眠に陥る事も嫌いである。つまり催眠状態は、他から強力な刺激を受けて、自から(ミヅカラ)が留守になることである。そこで指導者も自から(ミヅカラ)自己に暗示をかけて、自己暗示(コクヨ)夢とゑうことを考えて、訓練をしたのである。

著者の藤岡氏も、自(ミヅ)から暗示を与えて、約数十日で、上え浮上した如くに感じたと書いて居るが、私も亦三十日位の訓練で、天井に近い処まで浮上した如くに感じるようになったのである。即ち現今大いに流行している国際T・M超越瞑想の連中は、本当に空中を翔ぶと思って居るらしい。

兎に角、大切な事は、浮上する如き感じを体験した場合には、いつでも、己れの体重を感じない、つまり重力を感じないような、全

身に力が入っていない状態になり得ることである。個体の方は、それで充分にリラックスできたのである。

次には、観念の方もリラックスしなければならない。そこで私は、無を想念したり、理屈にならない公案や、マントラの如きものを想念するかわりに、此の大自然の宏大な宇宙を想うのである。NHKブックス188の宇宙の科学、小尾信彌著を読んで、百万光年の先きの、大きな卍ネルギイを発している卍の

コクヨ

星を想念するのである。

斯くして神身ともに能動的に分別を超越した時、我々は完全に祖先達の生きる叡智と発揮することができるのである。

北アメリカのスタンホード大学の研究所での実験報告を本に纏めたマインド・リーチ集英社版、ラッセル・ターク、ハロルド・パッフ著、猪股修二訳を同人徳永医博から貰ったが、それには、遠隔透視の面白い実験例が沢山載っているが、それ

は熟練した超能力者とズブの初心者との差が少いのである。

去る十二月十七日の日曜日の午後三時頃に、4チャンネルのテレビで、魔術師引田天功氏が、若い女性を催眠させて、ソレと同じような成績を挙げたのを見たが、我々は自(ミヅ)からの意志で、自(ミヅ)から選ぶ処の目標に向って、自(ミヅ)からなる己れの力を発揮(ジユウ)すべきである。

以上で順風耳(ジユンプウジ)、千里眼(センリガン)(幻視)、宿命(シユクメイ)、漏尽(ロジン)と云う六神通(コクヨ)のうちの四つを行うことができるようになるのであるが、時機を見て、他人の研究をも報告する筈である。